

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 11月26日

【評価実施概要】

事業所番号	2690800012
法人名	株式会社 メデカジャパン
事業所名	東山ケアセンター そよ風
所在地	〒605-0981 京都府京都市東山区本町18丁目386-1 (電話) 075-533-7105

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階
訪問調査日	平成21年11月20日
評価確定日	平成21年12月7日

【情報提供票より】平成 21 年 10 月 15 日)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 15 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	15.8 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	2 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	80,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷 金	(有) (300,000 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,666 円			

(4) 利用者の概要(10月 15日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	5 名	要介護2	8 名		
要介護3	1 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.7 歳	最低	76 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人弘正会西京都病院、医療法人優誠会みささぎ歯科クリニック
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当該ホームは京都五山伽藍である東福寺の近くであり、1階には居宅介護支援事業所とサービスが併設されています。2階にあるホームは、京都らしい格子戸や障子を取り入れ2つのユニットを自由に行き来できるようになっています。散歩や外気浴で季節の移り変わりを肌で感じ、居室で手紙を書いたり折紙を折るなど好きな事ややりたい事に取り組んでいます。利用者本位のペースで自由な生活を送り、明るく元気な日々を過ごされています。地域との交流もホームが3年目を迎えたことで町内会の行事や集まりに参加し、ホームの状況を伝え、ホームの催しの時には地域の方に声掛けして参加いただくなど少しずつ地域に溶け込んできているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の課題であったホーム独自の理念を職員と話し合い作り直しました。また、災害対策では、消防団に声掛けし、町内会に参加してホームの状況を伝え協力をお願いするなど出来ることから取り組んでいます。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、職員に意見を聞きながら各リーダーがまとめました。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者や家族、町内会会長、近隣の方、地域包括支援センター職員などが参加する運営推進会議を2か月に1回、開催しています。ホームから行事や事故、ヒヤリハット、地域交流、ボランティアの受け入れ状況などを報告し、参加者からは多くの意見や要望を聞くことができる有意義な場となっています。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	来訪時や家族交流会、運営推進会議などに参加があり、気になるようなことは何でも直接話してもらことで信頼関係が構築されています。意見や要望があれば職員で話し合い改善策を家族に伝えています。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し回覧版で地蔵盆や敬老会、運動会などの情報を得て参加しています。散歩や近隣で買い物をして顔見知りになり挨拶を交わしています。保育園の催し物の見学や七夕の飾り付けを頂いたり、中学生の総合学習の受け入れをしています。今後更に多くの方がホームに来てもらえるように検討しています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスを意識して、職員一人ひとりが一つずつ考えたものを持ち寄り、職員と話し合いホーム独自の理念を作成しました。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人としての介護サービスの理念を朝礼時に唱和しています。職員は理念をコピーして暗記しながら確認しています。利用者に毛筆で書いてもらったホーム独自の理念をホーム玄関に掲示していますが、法人の理念に比べ意識する機会は少ない状況です。	○	今後リビングなど皆が目につくような所に掲示したり、振り返りや再確認できるようにしたいと考えられており、今以上に職員の思いの込められたホーム独自の理念の実践につながることを期待します。
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し回覧板で地蔵盆や敬老会、運動会に参加しています。散歩や近隣で買い物をして顔見知りになり挨拶を交わしています。保育園での催し物の見学や七夕の飾り付けを頂いたり、中学生の総合学習の受け入れをしています。今後更に多くの方がホームに来てもらえるように検討しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価表は、職員に意見を聞きながら各リーダーがまとめました。前回の改善課題については、ホーム独自の理念を作成するに当たり職員からの意見を求め作成しました。災害対策では、地域の消防団に声掛けし、町内会に参加してホームの状況を伝え協力をお願いするなど出来ることから取り組んでいます。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者や家族、町内会会長、近隣の方、地域包括支援センター職員などが参加する運営推進会議を2か月に1回開催しています。ホームから行事や事故、ヒヤリハット、地域交流、ボランティアの受け入れ状況などを報告し、参加者からは多くの意見や要望を聞くことができる有意義な場となっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、センター長が取りまとめてホームの状況の報告や相談をしています。運営推進会議録を持参したり、介護相談員の受け入れをしています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホームとして利用者の様子の写真やコメントを入れた「そよ風たより」を発行しています。また、利用者ごとにも写真を載せ日々の暮らしぶりの様子や健康状態をコメントにして送付しています。金銭管理は、預かり金とし来訪時に納入帳の確認をもらいサインを頂いています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や家族交流会、運営推進会議などに参加があり何でも話し合うことで信頼関係が構築されています。意見や要望があれば、職員で話し合い家族に改善策を伝えています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員と何でも話し合える関係作りに努めています。退職者もありましたが、メンタル研修や年に2回の人事考課も取り入れ、離職が少なくなるよう配慮しています。長く務めている職員を中心に新しい職員が利用者と馴染みの関係ができるように配慮しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人での年間研修を作成し勉強会や研修をしています。外部研修では案内が来たら掲示し希望があればシフト調整して参加し、参加後は報告書を提出し伝達研修をしています。会議を兼ねて勉強会を始め、今後も継続して出来るよう取り組んでいます。新任職員にはトレーナー制度を取り入れています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の福祉関係者との勉強会や法人内の交流をして相談や情報交換などを行っています。ホームが職員不足の時には法人内のグループホームから職員に応援に来てもらい、情報交換の場となることもあります。	○	法人以外のホームを知るためにもグループホーム協議会や連絡会などのネットワーク情報を得て、職員同士の交流や情報交換などに参加されてはいかがでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には利用者や家族に見学に来てもらい、他の利用者から声掛けされることもあるなどホームの様子を見てもらっています。入居が決まれば家庭訪問をすることもあり、家族やケアマネージャーから多くの情報ももらっています。また、自宅での生活が継続できるように今まで使っていたものを持ってきてもらい少しずつ馴染んでもらえるように工夫しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員が生活する中で何でも一緒に出来るように取り組んでいます。男性の利用者も洗濯物を干したりたたんだり、食事の下ごしらえや味付けなど声掛けもしながら一緒にしています。また、故郷の事や以前の仕事の事などを聞きながら様々なことを教えてもらうなど支え合う関係作りに努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で何気ない会話や状況に応じての行動が把握できるように努めています。センター方式や法人のアセスメント表を使用し希望や要望を聞きながら把握できるようにしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式や法人独自のアセスメントを使用し、利用者や家族の希望や要望を取り入れ、カンファレンスを行い職員の意見を取り入れ介護計画を作成しています。また、必要があれば医師の意見も取り入れています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回の見直しをしています。毎月職員からの意見を聞きながら達成度や評価のモニタリングを行い、見直しの際には再アセスメントをしています。また、状況に変化があればその都度見直しをしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の都合で行けない通院介助や1階にあるデイサービスの大浴場やカラオケを使用したり、ボランティアの来訪時に参加しています。また、月に1回の訪問理美容や買い物、移動バン屋などを利用し一人ひとりの希望や要望に応じた支援をしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医を継続できることを説明していますが、現在全員の利用者が協力医に変更されています。協力医の往診が月に2回あり何かあれば電話でアドバイスや指示をもらっています。訪問歯科や口腔ケアは希望や必要に応じて来てもらい、1階のデイサービスの看護師と連携を持ち相談や指示をもらい体制を整えています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に「医療が常時必要になれば退去」と説明していますが、その時の状況になれば医師や看護師も交えて話し合いを持ちたいと考えています。昨年度の家族交流会でターミナルケアについてホームとしての方針や質問を受け話し合いました。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いについては、強い口調での会話が見られる時があり、その都度注意出来るように努力して、接遇マナーを会議で話し合っています。個人情報の記録物は、鍵付きのロッカーに保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位の自由な生活を支援しています。声掛けはするものの断られる方もおり、利用者の意思を尊重し自分のペースでしたい事をして日々の生活を送っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	業者からの食材が配達され、利用者の希望も取り入れながら準備から調理、味付け、下膳、後片付けを職員と一緒にしています。職員も同じテーブルに着き同じものを食べ会話を楽しんでいます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	昼寝や往診、行事等で時間帯は変更することもあります。出来るだけ利用者の希望やタイミングに合わせ入浴できるように準備しています。少なくとも2日に1度は入浴できるようにしていますが、希望があれば毎日の入浴も可能です。また、拒否傾向の利用者には、時間をずらしたり職員の工夫した対応で入浴できるようにしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器洗いから食器拭きまで他の人の手伝いを断り利用者一人ですれる方や洗濯干しやたたみなどを役割としているかたもいます。手先の器用な方は、折り紙や習字、写経などを楽しみ、ホーム玄関での外気浴やドライブ、買い物、散歩など外出できるように支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1階の玄関にはベンチが設置されており、外気浴や散歩に毎日出かけています。買い物に出かけたり外食でお寿司やうどん、お好み焼き、ホテルでのスイーツなど利用者の意見を聞きながら食べに出かけています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	交通量も多く安全や防犯のためホーム玄関はオートロックしています。ユニット入口はセンサーで対応し、エレベーターを使い1階に自由に降りることもでき、家族には説明し理解を得ています。常に利用者の見守りを怠らず居場所を確認し外出したい様子を感じたら職員と一緒に出かけられるようにしています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いの下、年に2回昼夜想定した避難訓練をしています。地域の消防団と連絡を取り運営推進会議で話し合っています。また、町内会の集まりに参加してホームの状況を伝え協力をお願いしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の立てた献立を参考に利用者の希望を取り入れ、乳製品や野菜が多く摂れる様に工夫しています。食事量や水分量は毎回記録して、既往歴のある利用者には医師からのアドバイスを頂いています。また、お粥やうどんなど利用者の体調に合わせた支援をしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット間の行き来ができ、格子戸や窓には障子を取り入れられ京都らしい雰囲気があります。空調が直接当たらないような工夫やリビングから見える景色は季節の移り変わりが楽しめ、折り紙で作った作品や大きな鶴の絵に色を塗った作品を飾っています。また、玄関にはベンチを設け、外気浴や木々を見ながらゆつくりと過ごせるようになっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使いたないものを家族と相談しながら持ってきてもらうようにしています。備え付けの飾棚があり、利用者には写真やテレビ、仏壇、宝塚のパフレット、鏡などを持ち込んでもらい、利用者の千羽鶴など手作り作品や習字などを飾っています。利用者自身が毛筆で書いたものや折り紙で切り絵を作り住所も入れ一人ひとりの表札があります。		